毎　日　新　聞

2017年（平成29年）8月12日（土）

静岡 SHIZUOKA
shizuoka@mainichi.co.jp

源兵衛川に生息する魚や虫を調べる台湾社区大学のメンバーら＝三島市南本町で

環境改善など学ぶ

台湾・社区大学の15人 三島で魚や虫の生態調査

台湾の生涯学習組織「社区大学」（コミュニティーカレッジ）の関係者15人が三島市に滞在し、NPO法人「グラウンドワーク三島」（GW三島）から環境改善や組織作りのノウハウを学んでいる。市街地を流れる源兵衛川では、魚や虫の生態を調査した。

一行は9日、約1時間にわたって川を調べ、絶滅危惧種のホトケドジョウや胸に吸盤のあるヨシノボリ、コオニヤンマのヤゴ、サワガニなどを見つけた。参加者からは「ホトケドジョウを守るために何か対策をしているか」「この30年で源兵衛川から絶滅してしまった生物は」などの質問が出た。GW三島と社区大学は、国際交流を続けている。4～5月に約1カ月間、社区大学の2人が三島で研修を受け、6月には三島側が1週間台湾を訪れた。今回、台湾から大学教授や設計会社社長、元高校教師ら15人が7日に来日。13日まで三島に滞在し、ビオトープの整備や河畔林の再生活動を体験するほか、住民参加型のまちづくりや地域づくりの成果などの説明を受ける。

社区大学全国促進会の楊志彬事務局長は「GW三島の農業への取り組みやNPOビジネスに関心がある。台湾に数カ所の拠点を作り、ノウハウを学びたい。（今回の）参加者15人の専門分野は異なるが、実際に体験することでそれぞれ勉強になるはず」と話した。【石川宏】